

News

No.145
2022/10/01

■サレジオ高専News
校長メッセージ
学生活動紹介

■育英学院同窓会報
コロナで3年目もダメか・・・
会長挨拶
PICKUP FROM SALESIO BLOG
コロナでDX（リモート）化推進
どのような学生を育てようか・・・
母校で後進の育成に

■父母会だより
2021年度 父母会活動紹介

**SALESIO**

サレジオ高専

サレジオ工業高等専門学校

194-0215 東京都町田市小山ヶ丘4-6-8

Tel. 042-775-3020 Fax. 042-775-3021

Loving Kindness
Human Technology
Living Truth

発行人・・・校長:小島 知博
編集長・・・広報:星野 正登
編集・・・広報:青木 風季

- 学生たちの活躍を誇りに思います -

平素よりサレジオ高専の教育活動にご理解とご協力をいただき感謝いたします。

今年が高専制度創設60周年にあたっています。記念誌の発行、また11月には式典が執り行われる予定です。本校は1963年に高専として歩みはじめました。高専として59年の歴史があります。これまで時代のニーズに応えることのできる学生を正課授業、研究活動、産学官連携活動などを通して育成してきました。とりわけ産学官連携活動は学生の良い学びの場となっています。

現在、本校が取り組んでいるいくつかのプロジェクト活動を紹介します。一つ目は自動運転開発プロジェクトです。2020年度の自動運転カート開発をスタートさせ、一定の条件下において全ての運転をシステムが行える「自動運転レベル3」のEV完成を目指したプロジェクトです。電気工学科の井組研究室による技術開発と、企業と卒業生による車体制作ならびにデザインとが一体となってプロジェクトを進め、2022年4月に車体が完成しました。現在も井組研究室によって技術開発が進められています。

二つ目はデザイン学科の活動です。サンデン・リテールシステム(株)とのコーヒーマシンデザイン連携です。2020年度から毎年、5年生の応用デザイン実習Ⅱの授業では、サンデン・リテールシステム(株)へのコーヒーマシンのデザイン提案に取り組んでいます。当初はコンビニエンスストア向けの筐体デザインのみでしたが、2021年度以降からは空間やシチュエーションにまで内容を広げ、「売れるコーヒーマシンの提案」というより発展的な内容にシフトチェンジしています。企業からの期待の大きさを感じることができます。

このように現在も産学官連携を通して学生が受ける知的、技術的な刺激は技術者教育には重要です。また学外の方々との連携ということもあり、緊張感をもってきちんと取り組むこともよい学習の機会となっています。しっかりと自分の技術力を高めることを意識して積極的に産学連携に取り組む学生たちをうれしく、また誇りに思います。これからもサレジオ高専の学生たちの成長をあたたく見守り、支えてくださることを願います。

サレジオ工業高等専門学校
学校長 小島 知博

高専ロボコン2021 関東甲信越地区大会 特別賞（東京エレクトロン株式会社）

2021年10月31日に開催された「高専ロボコン2021 関東甲信越地区大会」に本校のロボコンプロジェクトチームが出場しました。本校のロボコンチームは「おつロボ製作委員会」というおつかいができるロボットを造り上げ、特別賞（東京エレクトロン株式会社）を受賞しました。

テーマ 超絶機巧（すごロボ）
ロボット名 おつロボ製作委員会
チーム サレジオ工業高等専門学校Aチーム



電気工学科 井組研究室 自動運転EV 研究開発プロジェクト

電気工学科では、2020年度から「自動運転レベル3を目指した自動運転EV」の研究開発プロジェクトをスタートしています。基礎研究から始まり、シャーシの開発や卒業生や企業と連携したデザイン制作などを経て、ついに2022年度には車体の開発まで進めることができました。

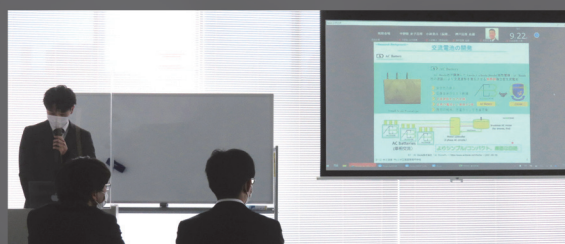
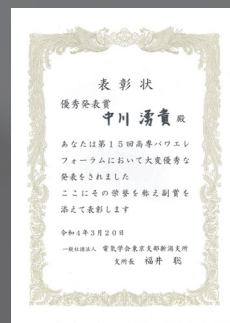
本校の公式YouTubeチャンネルでは、開発の様子をMovieにして公開しています。ぜひご覧ください。



第15回高専パワエレフォーラム 優秀発表賞

2022年3月20日、新潟県長岡市の「まちなかキャンパス長岡」で行われた「第15回高専パワエレフォーラム」で米盛研究室の学生が発表し、専攻科2年生の 中川 湧貴さん（指導教員：米盛 弘信 准教授）が電気学会東京支部新潟支所より優秀発表賞を授与されました。

受賞論文 独立型交流電池による電源システムの提案
受賞者 中川 湧貴（専攻科 2年）
米盛 弘信（機械電子工学科/専攻科 准教授）



育英学院同窓会報

発行人:育英学院同窓会 / 事務局:東京都町田市小山ヶ丘4-6-8 サレジオ工業高等専門学校内



特集 高専から大学・大学院を経て教員に・・・

高専卒生の人生もイロイロになってきました。来春は高専56期生を迎えます。今回は高専から大学・大学院を経て大学や高専の教員になった皆さんの中から3人の方に寄稿をお願いしました。これらの方以外にも札幌医科大など何人かいるようです。今回は3年ぶりに住所確認の全会員に発送しますが来年以降は**会費既納会員限定**になりますので、今回は非納付をお願いします。(事務局)

コロナで3年目もダメか・・・

現在学校で検討中ですが結論は10月になるようで
BLOG、MLで育英祭と
卒生の集い(SHCD)情報を流します!

2022年9月17日に同窓会執行役員会を開催、学校の方針決定後にそれを受けて卒生の集い開催可否の情報をML、BLOGで情報提供することにいたします。

昨年同様条件付きで公開はするものの飲食はしないということになれば食べて飲んで大声で話したいというのがSHCDの集いですから開催は困難です。

来年2023年は平常の様態で開催できることを再び願いますがおミクロン型の次はパイとか永遠に続きそうです。

昨年2021年が定期総会年で、紙上で報告いたしました。会長は2期4年で満了でしたがこのような事態で引き続き会長職をお願いしております。

会長挨拶

育英学院同窓会長 河村 英和 (高専1期)



卒業生の皆さん、コロナの下、いかにお過ごしでしょうか。早3年が経とうとしております。同窓会の本質である「集って話すこと」が止められてなんとも残念です。

右上に続く

左下の続き

育英工高卒の方はすべて後期高齢者ですのでどうぞお気をつけください。高専初期もそれに続きます。もちろん若い世代も注意は必要でサレジオ高専でも常時数人から十数人の範囲で検査あるいは陽性対応という報告が入っています。

それでも執行役員会をリモートで行ったり、鈴木(阿久津)副会長の東ティモール支援に協力したりと頑張っております。

高専もコロナ下、授業は対面に復帰していますがリモートも利用するハイブリッドになったりしています。しかし野尻キャンプ、校内体育大会、育英祭、キャリアデーなど学生行事はかなり被害を受けています。今年卒業した55期生は卒業アルバムの写真がないなど苦労していました。卒業式・謝恩会の招待もなくなっています。

今春キャリアデーもハイブリッド型で運営されましたが協力頂いた卒業生講師の皆さんに感謝申し上げます。リモートで行うにはもう一つ工夫があるかなと思いました。

上部団体のサレジオ同窓連合もリモートでEAO大会に参加したようですが、これもWebベースでの報告になりました。

今後ますますWebやMLなどインターネットを活用した同窓会活動に移行していくかもしれませんが私の世代としてはさびしい限りです。

どうか改めてご家族を含めてご自愛のほどお祈りいたします。不明のことあれば事務局 (kido.yoshihito@gmail.com) あておたずねください。

今年高専創設60周年になります。それに合わせて国公私立の卒業生の活躍をまとめて冊子にする企画が進行中です。サレジオ高専からも育英高専時代の卒業生から4名の方に寄稿を頂きました。野原節雄さん（S01EP）、佐藤敏明さん（S14ID）、鎌田光宣さん（S30CS）、米盛弘信さん（S36EC）です。その中で鎌田さんと米盛さんは別掲の記事になっていますのでここでは野原さんと佐藤さんの寄稿を掲載します。

デザイナーを志して46年

佐藤 敏明

江崎グリコ株式会社デザイン部部长
育英（現サレジオ）高専 14期工業デザイン学科卒



私が育英高専でデザインを学び始めて今年で46年。東芝、ソニー、NEC、そして現在の江崎グリコと半世紀近くデザイン業界に存在し続けてきたのは「デザイナーになりたい」という志が成就した結果といえるでしょう。入学後、他学科に機械・電気・情報・印刷といったデザインを取り囲むテック&サイエンスの専門領域が揃い、出会った教師・学生から多くの学びを得ました。校長がベルギー人、副校長がイタリア人、図学の教師がドイツ人と10代でグローバルな環境に置かれたのも、後の海外活動に大きく影響しました。

1977年に校外授業で見学した晴海国際見本市会場東館（ドーム館）の「カロツェリア・イタリアーナ`77」では、ヌッチオ・ベルトーネ、セルジオ・ピニンファリーナ、エリオとジャンニ・ザガート兄弟、ミケロットの内田盾男さんなど、カーデザイン界の巨匠と並んで集合写真を撮りました。数十年後に内田盾男さんやザガートを継いだ原田則彦さん、ジウジアーロのお嬢さんラウラとの交流に繋がるとは思いもしませんでした。私のカーデザイン好きを刺激した

ようです。私が多くの日本人の暮らしを飾った「ガラケー」をいちばん世に多く送り出したデザイナーとして名を馳せることができたのも、授業で身につけた体得した基本と実技で「新しい社会潮流に向けて、デザインはどうあるべきか」という問題に取り組む「バウハウスの理念」のおかげです。人生の折り返し地点を過ぎたこれからは、次の時代を切り開く若手たちと力を合わせ、より社会に役立つデザインのあり方を目指して歩んでまいります。

育英高専での学びは、問題の本質を深く掘り下げて、問題を解決するための考察と設計（design）を行い、志（vision）に基づいた体験（experience）を想像・創造し続けることでした。今後も、一人ひとりを豊かな人生（well-being）に導くことを目的に、未来社会への夢や希望に向けて歩み出す「デザインのチカラ」を活用し、社会と人々の生きがいを求め続けてまいります。

人生50年からの挑戦

野原 節雄

IMTエンジニアリング株式会社 技術研究所所長
育英（現サレジオ）高専 1期電気工学科卒

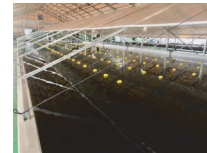


私が陸上でのエビ養殖の事業を手がけたのは高専を卒業して長く在職した建設関係の会社で50歳になったときでした。このバナメイエビ陸上養殖を私の仲間や支援していただいた恩人とともに研究、試験操業に従事して25年近く経ちました。この間新潟県の妙高で「妙高ゆきエビ」として商品化し、一流ホテルにも納品されたりしました。今回は大手電力会社がファウンダとして参加し、始めて大型の商業生産にたどり着いたということです。その内容がこの度テレビ静岡で放映されました。日本でエビの大型陸上養殖施設が静岡県磐田市に完成し、規模は陸上養殖施設として国内最大級の生産を見込んでおり、この施設から関西電力などと設立した合同会社がバナメイエビの生産、加工販売を行います。

施設には6つの養殖用プールが整備され、人工の海草と波が自然に近い環境を再現し、また一度くみ上げた水は循環、濾過して再利用、水温や水質を管理して安定生産を図ります。



← 工場全景



エビ養殖水槽→

合同会社（海幸ゆきのや）の秋田社長からも今までエビはほとんど輸入に頼っている現状なので、期待が大きいです。我々はこれまでの研究成果からモンゴルの内陸など水産資源を入手しにくい地域でもエビの養殖が可能になっています。今年2022年7月にプールにエビを入れ10月から出荷予定で、年間約80tの生産を見込んでいます。プラントには縦40m・横12mのプールが6レーン設置され、天竜川や遠州灘の地下水、地下海水を使用するのも特長です。

こんな私を育ててくれた学校が育英（現サレジオ）高専です。高専1期といえば入学倍率は20倍、ベビーブームの先頭世代としてユニークな人材を多く輩出した母校に感謝する次第です。高専時代は、電気工学科に所属していましたが、ほぼすべて、プラスバンド部の活動に費やしていました。その活動の中でビッグバンド結成や、ジャズクインテット、エレキバンドなど多様なジャンルの音楽に接していました。そのエネルギーが、新しいことへのチャレンジにつながっていると実感しています。

2022年04月16日

訃報：伊藤清宣さん (S01EP)が逝去されました

高専1期電気工学科卒の伊藤清宣さん(享年74歳)が去る2022/2/24逝去されました。ご葬儀は家族葬で執り行われました。特にご病気で療養中ということではなく散歩中に公園のベンチで休まれている際に心不全に陥ったとのことです。彼は卒業後アンリツ電機に勤務、営業部長として活躍されました。喪主の奥様から「皆様もお体だけは御目愛ください」との言付けがありました。(同期の河村同窓会長から)いかに2011年同期会での集合写真を掲載します。〇で囲った方が伊藤さん



最近ご葬儀で故人の関係者が集まる機会もないので同窓会として事後の訃報告知をいたしますので、ご友人のご希望の方は情報提供を頂ければ幸いです。(事務局)

2022年07月29日

訃報：長澤幸男神父(2022年7月24日)

【訃報】ドミニコ・サヴィオ長澤幸男神父 帰天
 私たちの兄弟会員 司祭 ドミニコ・サヴィオ 長澤幸男(ながさわ ゆきお 享年81歳 誓願62年)は、去る7月24日(日)16時17分、聖フランシスコ病院(長崎市)にて、間質性肺炎のため、御父のもとに召されました。
 生前のご厚誼に深く感謝申し上げますとともに、長澤神父の永遠の安息を祈りつつ、謹んでお知らせいたします。(以下同窓会事務局補遺)
 師は1971年から1987年まで育英高専(現サレジオ高専)において高専の宗教担当、倫理哲学担当、後に学生主事等を歴任、学生の手話にあたった。当時の教職員とも深く交流の機会を持った。先の本専卒業生の西村英樹師が叙階されたときにカトリック篤志教会の主任司祭として共式された。



なお通夜、葬儀ミサ・告別式は長崎で家族葬で執り行われる。https://salesio.jp/news/17863

2022年04月14日

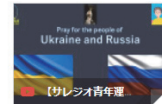
告知：ウクライナそしてロシアにも祈ろう

友人からの情報提供です
 木戸能史
 14:20 (1分前)To 自分

SYMjapan主催
 🙏ウクライナとロシアのための祈りの会🙏

来たる4/15(金)の21:00~、ウクライナとロシア🇺🇦🇷🇺の為に祈りの会をします🙏🙏🙏。ロシアとウクライナの戦争により、多くの方の命が奪われ、さまざまな苦しみを抱えていらつしゃいます。私たちができることは多くありませんが、共に祈ることができると幸いです。この時、ぜひ、心を合わせて祈りませんか?? 配信される動画と共に祈っていただけると幸いです。🙏🙏🙏ご協力お願いします。

日時:4月15日(金) 聖金曜日 21:00~21:20参加方法:YouTubeのURL
<https://youtu.be/CSQMWHVODT8>
 をクリックしてください。動画はアーカイブとして残りますので、後からでも視聴可能です。



2022年04月16日

告知：東子モールフェア2022/5/21

来る2022/5/21上智大学で「東ティモールフェア」が開催されます。当同窓会理事の鈴木(旧姓阿久津)ちひろさんから情報提供がありましたので下記の通り転載します。当同窓会執行部もエントリーしており、鈴木理事のブランドVIVATIMブランドの小物販売を企画しております。

5月21日 上智大学にて東ティモールフェアがあります! 🙌

今年は「育英学院同窓会執行部」として VIVATIM handcraft参加します😊

東ティモールについて知りたい人、少しでも興味のある人は是非遊びに来て下さい😊

フェアサイト
<https://timor-leste-fes.com/>
 Youtube
<https://youtu.be/CSQMWHVODT8>



報告：被災した東ティモールから復興の報告

2022年08月13日

育英学院同窓会鈴木(阿久津)ちひろさんからの報告です。昨年東ティモールのディリ周辺を襲った大雨で川が氾濫、多くの市民がサレジオの施設に避難しました。その際に育英学院同窓会、サレジオ同窓会連合、ちひろさんの友人など多数の方からご寄付をいただき被災支援金として送金しました。今回現地から報告があり、その支援金により4軒の家が建てられ被災家族が入居したそうです。

7月22日に東ティモールのマリオ神父がシェアしてくれました。本当は早く説明を入れて、去年東ティモールの水害で応援してくれた方たちにお伝えするべきでしたが、バタバタとして今になってしまいました。寄付金の内訳は大きく分けて上記の3つのグループでしたので、新しい家に3つのペナントフラッグが飾られました。緊急支援をしてくれた友人のYOSHIKIくんはXJapanじゃありませんが…私の友人の一人です。

育英学院同窓会、日本サレジオ連合、私を応援してくれた方々、皆様からの義援金が4軒の家になりました。メッセージはTetun語でしたので誤訳があるかもしれません

「Uma maruk Timor」(友達の家)

私達はUMTと呼びます

2022年7月18日UMTがApoliano神父とJoao Roque神父によって祝福されました。

悲しみの涙は喜びの涙となった。2021年4月の水害によって、たくさんの方の生活が困難になりました。

Joao da Costaさん、Bendita de Jesusさん、Domingさん、Monizさん

彼ら四人の境遇は同じで、家が失くなり、家畜も、田畑も、木々も失った。

今日の午後、四人は眞実だけ新しい家を手に入れることができ、とても喜んでます。



これらの寄付金は海外にいるティモールの家族達、宗教に関係なく日本から当初に送られた寄付金によって送られました。

以下に現地からのテトゥン語のメッセージとFB動画のURLを追記しました!

[https://m.facebook.com/story.php?](https://m.facebook.com/story.php?story_fbid=pfbid09oLSUpGuXDYCh8JAqFWie5iLX1DKGyhinD7WDoosPbnmGvFqQb6YLnbTJnSkj)

[story_fbid=pfbid09oLSUpGuXDYCh8JAqFWie5iLX1DKGyhinD7WDoosPbnmGvFqQb6YLnbTJnSkj](https://m.facebook.com/story.php?story_fbid=pfbid09oLSUpGuXDYCh8JAqFWie5iLX1DKGyhinD7WDoosPbnmGvFqQb6YLnbTJnSkj)

2022年05月21日

報告：東ティモールフェスタへ参加

去る2022年5月21日(土曜日)東ティモールフェスタが上智大学学園祭に合わせて同大構内で開催されました。当育英学院同窓会執行部としても水害支援の線から協賛し、開場に出店しました。ちょうど雨模様ではありましたが、多数の協賛団体、同国の大使館、JICAなどの後援もあって多くの関係団体、参加者が参集していました。内容はチラシをご覧ください。出店ブースは同窓会副会長の鈴木ちひろさんの手作り手芸品、アクセサリーや同国の特産品であるコーヒーなどを販売、某TVのクルーが撮影にも来ていました。執行部からも川島副会長、奥山副会長が参加しました。画像スナップには同国大使館の書記官(既知)も訪れていました。



大使館書記官来訪



奥山副会長来訪、川島さんと鈴木さんはスタッフ(鈴木さん)

2022年03月01日

告知：加藤多津生さんの「保谷フォトクラブ」で写真展(3/22-28)

加藤多津生（工高12期印刷）さんが所属する保谷フォトクラブが恒例の写真展を以下にあるように3月下旬、池袋西口芸術劇場で開催されます。写真部OBの方は是非どうぞ

第13回 保谷フォトクラブ 写真展
四季の情景 ～魅せられて～
2022年3月22日(火)～3月28日(月) 11:00～19:00
東京芸術劇場アトリイースト(地下1F)



協賛者
南川 智江 井上 正広 及川 純子 加藤多津生 藤巻 尚吉 松久岡 肇 松久岡俊輔
佐藤 孝子 岸本 隆弘 藤口 弘明 藤田 昌雄 藤田 裕子 田島隆一
伊 奈子 仁神 俊雄 堀川 謙男 宇木実智明 益田 利雄 三浦 智雄 水橋 真
香取川 武 山本久一郎

加藤 多津生 KATOH TATSUO
〒165-0023 東京都中央区豊町3-42-1
Tel : 03-3338-3953
Mobile: 090-6795-6284
E-mail: stkatou@nifty.com

〒171-0021 東京都東区江川町1-1-1
| TEL | 03-5391-2111
※ 本会からの電話による、緊急連絡用電話番号は03-5391-2111です。本会が主催するイベントの申し込みやお問い合わせは、必ず本会事務局へお問い合わせください。

私は下記の期日会場におります。本場におります。
3/22(火)3/23(水)3/24(木)3/25(金)3/26(土)3/27(日)3/28(月)

2021年12月23日

紹介：コンプリ神父の著作紹介とX'mas Massage

cimatti30@gmail.com 2021/12/21 14:44 (2日前)

クリスマスと新年おめでとうございます！ Buon Natale e Buon Anno!

まず、91歳まで私にいのちをくださった神に感謝いたします！ 生かしてくださるのは、やるべきことがまだあるためでしょう。この一年、YouTubeで「人間としての哲学講座」を開講し、マガジハウスから出た「人間としての哲学」に基づいて毎週15分程度34回「人間としての在り方・生き方」の基本を紹介し、「なぜ、私はここにいるか」というテーマで1時間の講演も公開しました。これからは、このメールで視聴者の質問を受けてこの講座を続けます。
←人生に悩みをかかえている卒業生はどうぞ！

2022年1月8日からは同じように「カトリック入門講座」を始めます。今度は「こころにひかり」という私のカトリック入門書に基づいて、30回ほどの予定でカトリックの教えの要点を紹介する予定です。これは、カトリックの教えを知りたい方のため、また自分の信仰を再確認したい方のためです。神様が私を照らしてくださいようお祈りください。私も皆さんのためにより幸せな年になりますように祈ります。

←キリスト教に興味のある方はこちらに
ガエタノ・コンプリ神父



あとがき このメールに「人間としての哲学講座」と「カトリック入門講座」の目次を添付し、クリスマスのかわいいイラストもお送りいたします。

1 YouTube index 人間としての哲学講座の目次 Word 文書 (2).docx

2022年01月17日

訃報：高専10期電気工学科 内山秀俊さん(S10EA)逝去(享年66歳)

年明け早々残念なお知らせです。高専10期卒内山秀俊君が在住の台湾台北で12月29日心臓発作により逝去されました。卒業後池袋サンシャインのビル管理会社に就職後、計測制御技術を習得、後に横河ヒューレットパッカー(バンコック支社)に勤務、現在は自立自営されて日本の優秀な保守技術を東南アジア各国に提供できるようにエージェント業務に従事されていました。私(木戸)とも深い付き合いがあり亡くなる前日までSNS(LINE)で会話していました。謹賀新年の画像を送ったときには既読になりませんでした。1/15に台北聖家堂天主教会で葬儀が行われました。ご冥福をお祈りください。



2022年2月13日横浜カトリック山手教会で卒業生の西村英樹神父（高専26期卒）司式で追悼ミサを行った。
注記）台湾ではカトリックは天主教、プロテスタントは基督教と称します

2022年03月30日

報告：サイテックのサクラはどうなった・・・

一時期、サイテックの桜が枯れかかっているという話があり、心配していましたが・・・桂嶋会長とも相談し様子を見に行こうということになりました。去る3月29日（火曜日）有志で参集しました。伏木先生・稲葉さんをお迎えくださり、無事満開に咲き誇っていましたので安心しました。以下にサイテックの門前と桜での記念撮影の画像を添付いたします。会長以外に本橋幹事、河村同窓会長、依田先生に私木戸が参加し、桜のお世話をしている下井華教会の高橋さんも見えました。



2021年12月31日

訃報：土屋茂明師2021/12/29帰天

サレジオ同窓会連合事務局 12月30日(木) 9:42 (1日前)

To dbj-yakuin, サレジオ同窓会日本連合事務局

サレジオ同窓会日本連合 役員の皆様 同窓会連合事務局の立石です。

サレジオ会員 タルチジオ土屋茂明神父が、2021年12月29日 午前4時9分、入院療養中の四天王寺病院（大阪府大阪市）で、悪性黒色腫のため、神様のもとに召されました。享年87歳でした。土屋神父は、育英高専（現サレジオ高専）、大阪聖光学院（教頭）、サレジオ学院幼稚園（園長）などで奉職されました。ドン・ボスコ社の月刊誌「カトリック生活」編集長も務められ、今年20日に司祭叙階60周年（ダイヤモンド祝）の記念日を迎えたばかりでした。



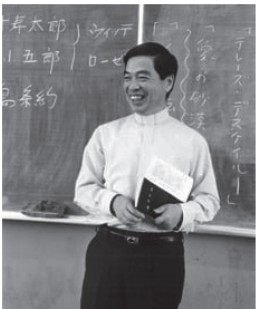
通夜ならびに葬儀ミサ・告別式は、下記の日程にて執り行われます。（告知が遅れて弔意が間に合わず申し訳ありませんでした。）

【通夜】 日時：2021年12月30日（木）18時 場所：大阪サレジオ修道院

【葬儀ミサ】 日時：2021年12月31日（金）10時30分 場所：同上

★通夜、葬儀ミサ・告別式はコロナ禍の状況を鑑み、サレジオ会員のみの家族葬で執り行われます。

サレジオ会員として、人びと・若者たちと共にいて牧者としての使命に生涯をささげられた土屋茂明神父に感謝を込め、永遠の安息を祈りつつ、謹んでお知らせいたします。以下育英学院同窓会事務局追記です。



師は1988年から1999年に当時の杉並育英高専に勤務され、一般教育国語科、倫理哲学で教鞭を執られ小柄な優しい風貌と人柄で多くの学生に慕われました。師には兄にあたる土屋真男神父がおられ1960年代に育英高専に在職されましたが早くに帰天されています。天国で再会されていると思います。

2021年12月06日

報告：デザコン2021入賞

今年のデザインコンテストの結果の内部報告がありました(谷上欣也先生から) 12月5日(日) 8:34 (1日前)いつもお世話になっております。谷上@デザコン担当です。スタッフメールで失礼致します。昨日、広島県ので開催された「第18回全国高専デザコン2021」において下記のとおり受賞いたしましたのでご報告いたします。

●プレデザコン部門

創造デザインフィールド【優秀賞(連合会会長賞)】

作品名 The Bird Soars Ariake

3AD 安西 夏穂

3AD 下河邊 千里

3AD 具 仁恵

3AD 多和田 風夏

●プレデザコン部門

創造デザインフィールド【特別賞】

作品名 有り明けの海を泳げ、未来へ。

3AD 遠藤 菜月

3AD 上原 果穂

3AD 太田 亜衣

全4作品を提出し、2作品が受賞しました。残念ながら最優秀賞は逃してしまいましたが、コロナ禍で思うように活動できない中で学生たちはよく頑張ったと思います。今回受賞に至らなかった1年生、2年生も先輩のアドバイスを受けながら作品を完成させました。今後の成長がとても楽しみです。作品につきましては公式YouTubeをご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=EQxIIh--0ZI>

今回参加した学生に暖かい声をかけていただけたら幸いです。デザコン出場に際し多くの皆様にお力添えをいただきました。深く感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

2021年10月09日

告知：全国高専プロコンYoutube中継(2021/10/10)

昨日10/9から本日10/10の2日間秋田高専からYoutubeによるリモート方式大会の中継が行われました。本サレジオ高専情報工学科も競技部門に出場、10/9の時点で予選を突破し、準決勝に進出したところまでは報告が入っています。その後どうなったか下記のサイトをご覧ください

<https://www.procon.gr.jp/>

第32回秋田大会 (2021)
「集え！ 未来創造への限りなき想い」
第32回全国高専専門学校プログラミングコンテスト(主催)開催地を拡大し、競技部門(自由部門・競技部門)の部門をオンラインで実施します。この、競技部門の拡大を含め、本大会のさらなる発展を期すために開催地を拡大し、競技については遠くまで情報をお知らせします。【定員について】
主催校：秋田工業専門学校(秋田県秋田市高島町1番1号)
【競技部門】
競技部門 / 「集え！ 未来創造への限りなき想い」をテーマに

第32回秋田大会はオンラインで開催します。大会本部の様子はVフォー株式会社協力でのYouTube Livで配信されます。下記URLからご覧ください。本誌に公開する各チームのタイムアップは公式ホームページからご確認ください。
※ 本誌がチームおよび大会運営に関与するものはオンライン会議を使用します。接続の情報は別途お知らせいたします。
プレイリスト: <https://youtube.com/playlist?list=PLT2669ZL1APxKWdH9E1mYvK8XCT>
10月09日 (土)
集合日: 09:20~10:00 <https://youtu.be/9J90ewx7TU>
競技部門1日目: 10:10~16:50 <https://youtu.be/2V0w166x0DM>
競技部門2日目: 10:10~17:10 <https://youtu.be/GccrQwem3A>
自由部門1日目: 10:10~17:10 <https://youtu.be/13oo9e7G6xY>
10月10日 (日)
競技部門1日目: 08:30~14:00 <https://youtu.be/9695009R9d>
競技部門2日目: 08:45~12:10 <https://youtu.be/9695009R9d>
自由部門2日目: 08:45~12:10 <https://youtu.be/9695009R9d>
09時開場からの受付(受付: 09:00~15:00) <https://youtu.be/0W95aCTN5BE> (特別観戦者向け) 観戦者専用
09時開場 (15:00~15:30) <https://youtu.be/0W95aCTN5BE>
閉会式 (15:40~16:30) https://youtu.be/7_Sm73L0A9k

同窓会でも冊子配布による広報活動インターネットの活用が必要になります。しかし文書による通知も必要ですので年会費納付のご支援も引き続きよろしくお願い致します。今回3年ぶりに住所の判明している全会員7409名宛発送になりましたが次回からは再び会費既納会員限定発送になる予定です。

2021年12月11日

告知：野島伸仁先生の狂言公演

本校一般教育英語科の野島先生から久々に狂言公演のお知らせが入りました。コロナの影響下、文化公演の目録もあってご苦労が多かったようですが、現下の沈静した状況で公演が再会されているようです。ご興味のある方は是非お問い合わせをどうぞ(同窓会事務局kido.yoshihito@gmail.com)

公演パンフレット



公演演目

演目	脚本	演出	役者
伝説と革新の競演	野島伸仁	野島伸仁	野島伸仁、野島伸仁、野島伸仁
...

2021年11月01日

卒業生：高専7期電気「海釣り」グループ

高専7期電気工学科の仲間長島さんを中心としたLINE GROUPがあります。そのメンバーの中で海釣り好きな仲間が集まって伊豆七島・八丈島周辺で釣魚を楽しんでいます。今回大漁の報告が入りましたので皆さんにお知らせします。メンバーは西村俊晴さん、野田恵さん、クラブ先輩つながりで1期の河村英和さんです。



2021年09月30日

WEM2021

WEM2021
一会でエントリーし、名はクーラーパンツァーです。写真や動画が出ますが、その画像の一部を添付致します。笑って頂けると、有り難いです。
以前連絡しましたが、所沢の秘密基地で卒業生と制作したエコノムープカーで秋田の八幡岡の大会に出場したら、大活躍しました。のを再度しつつご連絡致します。
本車、1.2V3AHの鉛電池4個で2時間多く走る車を作る、技術の競い合いです。しかし費用が多くなるので、我々は出来るだけ、費用をかける、面白く感じる車を作ることになりました。発想は育英電気工学科の卒業生、制作は育英情報工学とデザイン工学科の卒業生、会場に輸送や運転は育英高等の卒業生と横浜サレジオの卒業生が行ってくれました。ネットではWEM2021のゼッケン番でサレジオ育英ファミリ
0 0
B!ブックマーク いいね!
ツイート ブックマーク

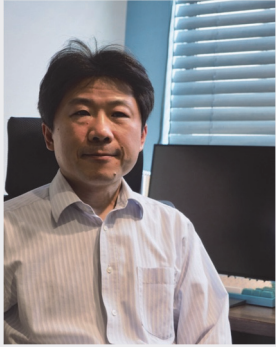
【Hokokuの最新記事】
 > 報告：東ティモールフェスタへ参加
 > 報告：サイテックのサクラはどうなった・・・
 > 報告：同窓会事務局からの近況
 > 報告：デザコン2021入賞
 > 速報：父母会レクパーティーからオファアの..

コロナでDX（リモート）化推進

小宮 常康

電気通信大学 大学院情報理工学研究所 准教授
(情報・ネットワーク工学)

育英（現サレジオ）高専22期電気工学科卒



中学生の頃、電子工作が趣味で回路を自分で設計できるようになりたいと思っていましたので、育英高専電気工学科に入学しました。いや、自分の趣味の領域の学校なら頑張れそうなので高専に入って将来は電子工学系のエンジニアを目指そう、だったかもしれません。とにかく、高専が自分にとって理想的なところに思えたの

です。実際入学してみると期待通りで（実験レポートは大変でしたけども）、俄然やる気が出て授業を真面目に受けることができるようになりました。育英高専に入学してしばらくすると、父親が念願のパソコンを買ってくれました。それからは電子工作の趣味はお休みして、もっぱらパソコンにのめり込むようになりました。もともとは電子回路でできているのにプログラムによって色々なものに化けるコンピュータになんとも言えない魅力を感じていましたので、コンピュータそのものやプログラミングの行為そのものが好きでした。

高専5年次には木戸先生の研究室（当時第5研究室情報系）に入りました。研究テーマは、教育用途でよく使用されていたPascalというプログラミング言語で書かれたプログラムの実行を追えるツールの開発です。簡単に言うと、「Pascalプログラム」を解釈して実行するプログラムの作成です。このプログラム開発は本当に充実していて楽しい体験でした。今の仕事の原点はここにあります。

その後の進路は、豊橋技科大情報工学課程3年次への編入です。大学への編入を考えるようになったのは、コンピュータが趣味になって「コンピュータサイエンス」と呼ばれる専門分野のことがあったからです（独立した立派な学問領域だと思いました）。編入当初は、全国の高専から集まる学生は優秀ですし、授業の進みも速いので、ちゃんとついていけるのか正直不安もありました。しかし研究室に入ってから、高専生が身につける「手を動かす／試行錯誤する」スキルがとても大きな武器になり、何の問題もなく張り合えることが分かりました（そういうスキルの優劣はどの高専でも変わりありませんから）。もちろんすごく優秀な人もいて刺激もあります。

大学での研究室は、プログラミング言語や言語処理系（コンパイラやインタプリタなど）の研究を行っているところを選び、覚悟を決めて大学院博士課程まで進みました。実は育英高専時代の卒研で作ったものは言語処理系そのものでしたからその続きを究めようと思ったわけです。この分野は現在の私の専門分野でもあります。そのときの研究では、言語機能を提案したり、言語処理系の中の機構の効率化の方法を考えたりして、それ

右上に続く

左下の続き

らを研究室で開発中の言語処理系に実装することを行っていました。それは謂わば提案機能の試験台です。その試験台である言語処理系がしっかりしていないと色々不具合がありますので、研究テーマの仕事とは別にその処理系の完成度を高めるべく、ソースコードを隅々まで読んでデバッグ・改良・機能追加を在学中ずっと継続して行っていました（これも好きだからです）。あるバグは原因特定に1年がかりだったこともあります。この経験がとても役に立ちました。処理系の実装に精通することにもなりますし、完成度の高い実装をしないと本当のことが見えてこないこともよくあるからです。

博士課程修了後は、自分の好む研究ができる「どこか」に就きたいと願いますが、そういう職場は意外とありません。運良く、私の就職活動とボスの他大学への異動の時期が重なり、その異動先の助手として採用してもらうことができました（その後、大学を2回移って現在は電気通信大学に勤めています）。大学教員は教育研究職ですので、教育や学生の指導も担っています。その点については、まあ研究室の後輩の面倒はよく見ていたから大丈夫だろう、くらいの気持ちでした。学生指導の大変さを真に味わうのは自分の研究室を持つようになってからです。研究を進めようと思うあまり、ついつい一方的に教えてしまいがちな頃がありました（単に知識を伝えるように教えるのはまだ簡単ですが）。しかしそうしてしまうと研究室で学ぶ価値が半減します。それで、なるべく学生の口から疑問が出るまで待つようにしています。が、学生の能力を引き出すように導くのは難しい。できることはそのちよとしたお手伝い程度だと思っています。

ところで、コロナ禍になって働く環境や学ぶ環境はずいぶん変わりました。ある先生が、コロナ禍になってリモートワークやオンライン授業など、10年掛かりそうなことが1年でできてしまった、夢は捨てるものではない、とおっしゃっていました。本当にその通りだと思います。これから社会へ出る学生さんには、新環境がリモートワークの場合やはり不利益もありそうで心配ですが、大小様々なチャンスが転がっているはずと考えてぜひとも積極的に活躍していただきたいと思っています。

どのような学生をそだてようか…

鎌田 光宣

学校法人千葉学園 千葉商科大学 人間社会学部
教授 学部長

育英（現サレジオ）高専30期情報工学科卒



育英高専（現サレジオ高専）を1997年3月に卒業、豊橋技術科学大学に編入学して大学院博士後期課程を修了し、学校法人千葉学園千葉商科大学で教員となり18年目となります。はじめは商経学部情報分野担当の専任講師として採用されました。その後、サービス創造学部の立ち上げと同時に学部を

次ページに続く

前ページの続き

移り、さらに人間社会学部の立ち上げと同時に再度学部を異動、現在は同学部の教授・学部長を務めております。

中学生のときに育英高専を選んだきっかけは、教室にあったパンフレットを見て「普通の高校と違ってパソコンの勉強ができる」と思ったことでした。当時はまだパソコンがそれほど普及しておらず、学校でITの勉強ができるのはとても魅力的でした……。が入学してから想定外だったのは普通の高校の科目もあったのです。低学年ではコンピューターに触れる機会が思ったよりも少なく、次第に実験レポートにも追われるようになり、2年生の途中で体調を崩してしばらく登校できなくなりました。それでも、優しい先生方や友人達に支えられ、なんとか復帰することができました。当時の友人達とは今も親しくしています。また、相性が悪く喧嘩したクラスメイトもいましたが、20年ぶりに同窓会で会ったらお互いに「いいおっさん」になっていて、すぐに打ち解けることができました。

3年生以降になると興味のある授業が増えてきて、第二種基本情報処理技術者に合格するなどして自信もつき、成績がグングン上がっていきました。そして、5年生のときに一度だけ就職活動を経験しました。育英高専の卒業生が在籍するIT系の企業で、自分の能力を発揮して働けそうなところでした。その企業に見学に行った際、卒業生の方から「今の時代、大学に行けるなら行っておいた方が良いよ。」というアドバイスを頂きまして、豊橋技術科学大学（以下技大）への進学を決めた次第です。

大学・大学院でもたくさんの躓きがありました。何より、他の人よりも高いと思っていたITスキルが、技大では普通だったのです。そして、今までにないくらい毎日必死に勉強してもついていけるのがやっとなで、友人の中には、教科書を一度読めば頭に入るといって羨ましい人がいたり、私の努力など生ぬるいと思えるほど猛烈に努力する人がいたり、とにかく自分の力不足を痛感させられました。育英高専で身につけたITスキルやレポート作成技術のおかげで何とかついていくことができましたが、育英時代にドイツ語を履修して、英語や数学をしっかりマスターしておけば、もっと余裕のある大学生活を送れたのではないかと考えています。

そもそも、人前で話すことが得意ではなく、アピールも苦手で、学力も人並みな私がなぜ大学教員になったのかというと、それしか道がなかったから、、、です。技大では、大学院修士課程を終えて就職をする人がほとんどなのですが、まれに博士後期課程に進む人がいて、私もその一人です。世界一の研究者を目指そう、という崇高な目標があったわけではなく、指導教官に誘われるがまま進学しました。人柄だけは良く、研究室の雑用をこなしながらまじめに研究にも取り組む、そんな私を気に入ったのかもしれない。博士後期課程では、学術誌に英語論文が掲載されるなどの成果を出さなければ学位が取れずに単位取得退学となってしまいます。さらに、就職活動をしようとしても27歳で社会人経験なしという、あまりに不利な状況です。将来への不安がストレスとなり、胃潰瘍になったこともありました。博士（工学）の学位を取り、大学で専任の職を得られたのは、努力したのと同様に、いくつもの幸運が重なったおかげだと考えています。

千葉商科大学に就職してからの経歴は冒頭に述べた通りで

右上に続く

左下の続き

す。複数の学部でいろいろな科目やゼミを担当してきました。高専生と比べると、高いITスキルを持った学生は多くありませんが、私の所属する人間社会学部では、高齢者福祉や障がい者福祉などの社会福祉に興味を持ち、地域の活動に積極的に参加している学生がたくさんいます。学生たちは、やる気があれば自分で学び、成長していきます。私たち教員は学生と積極的にコミュニケーションを取り、やる気を出すサポートをするのが仕事だと思っています。

グローバル化が進む現在の世の中では、共通のコミュニケーションツールとしての英語能力は必須と言えるでしょう。それと同時に、世界各地、それぞれの地域で自然や文化を大切にしながら、持続可能な社会を作ること求められています。地域の輪に入り、人々の声に耳を傾け、抱えている問題があれば一緒に解決しようと努めてください。人種や性別、障がいの有無などによる差別がない公平公正な世の中を実現するために、サレジオ高専のみなさんの力が必要とされています。



千葉商科大学キャンパス

母校で後進の育成に

米盛 弘信
サレジオ高専 機械電子工学科 准教授

育英（現サレジオ）高専36期電子工学科卒



1. 高専での思い出

やっぱり、昼夜問わず課外活動に没頭していたことですね！依田先生率いる放送部に所属して、放送配線や機器の修理を自分たちで行いました。音が届かない場所があると秋葉原で中古のトランペットスピーカを買ってきて、ハシゴに登って配線をします。コンソールの調子が悪いとき

もオシロスコープを使って故障箇所を探して部品を交換します。当時の育英高専は、かなり自由でしたので、何でも自分たちで直したり作ったりしていました。食堂に大型TVを設置した際は、TVの上に電光掲示板が欲しくなり、依田先生に回路を教わりながら数千箇所のはんだ付けをしました。「無いものは作る！」の精神ですね。

次ページに続く

これはよく云われる高専卒生の特徴で「理屈の前にやってみる」に通じます。

2. 進学への道（大学・大学院での経験）

高専時代の活動の中で、作りたいと思う回路を具現化するのは数多くの知識と経験が必要なることを実感し、また不安定な世の中を生き抜くには、もっと技術を身に着けた方が良いのではと思い、大学編入を決めました。編入先は、音響系の研究室がある国立電気通信大学電子工学科を選びました。

3年次編入してからは、電子工作ができる選択科目があったので、工作好きな私にとっては一石二鳥と思い、「電子工学工房」という場所で電子工作に取り組んでいました。「エレクトロニクスコンテスト」という学内イベントでは、SVBL所長賞（総合1位）を受賞し、人生初の特許出願をすることになりました。卒業研究は、音響系の鎌倉研究室へ入ることができ、超音波を利用したパラメトリックスピーカを動かすための変調回路を設計・製作して、特性を測定しました。結果的に卒研優秀賞を受賞することができました。

大学卒業後は、工学院大学大学院へ進学しました。高専・大学共にモノづくりでは回路を中心に製作していましたが、大学院ではパワーエレクトロニクス系の小林研究室を選択しました。研究テーマは、当時のトレンドだったオールメタル（アルミ鍋・銅鍋）加熱対応IH調理器の開発になりました。複数の学会誌を手にとって、参考になりそうな文献をとにかく探さず、1つのアイデアに辿り着きました。そして、高専時代と同様、研究室に転がっていた材料を使ってアイデアを具現化してプレ実験したところ、狙い通りの結果が得られたので、教授に報告したところ、大学院でも特許出願することになりました。その後、国内外の学会で数多くの発表を経験し、学会等において優秀賞等を複数受賞することができました。総じて、高専時代の実験・レポート・発表の3点セットや「無いものは作る」のモノづくり精神は全て活かされたと感じています。

3. 「教員への道」へのきっかけ（どうして教員の道に）

大学3年次の1月末に高専の先生から「4月から非常勤講師をしてくれない？」とお声掛けをもらったのが最初のきっかけです。「え？僕が先生!?」と思いましたが、「せっかくの機会だし、やってみるか～」と引き受けました。また、依田先生にお誘いいただき、ワールド・エコノ・ムーブの引率やNHK高専ロボコンの指導教員も担当しました。実際に非常勤講師として高専の授業や実験、課外活動などを担当する中で、地元の児童館でリーダー活動をしていた経験も活かせるので、このまま教員になるのも良いかなあと思い、大学院へ通う社会人学生として教壇に立ちながら博士号を取得し、今に至っています。

4. 教員となって学生を育てること（苦労したこと）

自分が理解しているつもりでも、他人に物事を教えることって、できるとは限らないんですよね。教員ですので「教える」という立

右上に続く

場ですが、上から目線ではなく「自分も学ぶ」という姿勢が大切だと考えています。技術は日進月歩ですので、学会等へ出向いて他大学等の先生方の研究を拝見し、さらに学会の委員として活動する中で最新の知見を入手し、学生へフィードバックすることが重要です。現代は、各学生の個性に合わせた指導が求められており、私たち教員も各学生の良いところを見つけて伸ばす方法を模索し続けています。学校という空間にいただけでは、井の中の蛙になってしまいますので、コンテストや学会等の校外活動に目を向けて自己研鑽を図ることが教員としての務めだと思います。学生を育てることは、自己研鑽は当然のこと、学生が教員を信頼してくれないと成り立ちませんので、私達教員は学生に寄り添って学生を理解し、周囲や家庭の協力を得ることで成し遂げられると思います。まさにドン・ボスコのアシステンツァですね。とはいえ、なかなか話が通じなかったり、文章を読んでくれなかったりと・・・苦労が多いのも確かですが、学生達が就職・進学して、良い仕事をしている報告を聞くのは教員冥利につきますね。



編集注）米盛准教授が投稿される学会誌と特集主幹の記事
出典：米盛弘信：“特集に当たって”，電気設備学会誌，42巻8号，p.500（2022-08）

5. これからを思って・・・（どういう時代にどんな人が）

国内外を問わず激動の時代ですので、様々な変化に対応できる人材が必要です。例えば、パソコンが普及する前はすべて手書きレポートでしたが、今ではパソコンでレポートを書くことや表計算ソフト、スライド作成ソフトを使いこなす能力が求められます。

さらに、新型コロナウイルス感染症による社会変化としては、オンライン授業やオンライン発表が行われました。海外の方との交流も増えています。つまり、自分で情報を収集・整理して環境に適応していく能力や他者を受け入れると共に自己の意見を発信する能力が必要で、そのための努力を継続できる人材が求められていると思います。また、暗記に頼るのではなく、工夫して目的を成し遂げる力も必要です。

このような人材を育成できるように、私達もあの手この手で頑張っていけないといけませんね！

Loving Kindness Human Technology Living Truth



高専News編集部では
皆様からの情報やご要望をお待ちしております。

ご自身の近況・ご学友の近況などの情報のご提供や、より詳しく知りたい本校の活動内容などがございましたら
お気軽に下記担当者までお問い合わせください。

企画広報課
星野 正登

【 hoshino@salesio-sp.ac.jp 】 or 【 070 - 2196 - 5135 】

なお、本校に來校をご予定の方は、公共交通機関をご利用の上、
お気をつけてお越しください。

